

平成29年12月7日

あきる野市議会議長 殿

会派名 公明党

代表者氏名 増崎俊宏



会派の(調査研究・研修)報告書

このことについて、下記のとおり実施したので報告します。

記

1 調査研究または研修実施日	平成29年11月 8日(水)～ 平成29年11月10日(金) 2泊 3日
2 調査研究または研修の場所	①11月 9日(木) 沖縄県 那覇市 沖縄県立武道館 ②11月10日(金) 沖縄県 那覇市 沖縄県立武道館
3 調査研究事項または研修名	第79回全国都市問題会議
4 参加者氏名(3名)	増崎 俊宏 田中 千代子 大久保 昌代
5 調査研究または研修の概要及び感想等	別紙のとおり

※ 自家用車を使用した場合は、必ず自家用車使用報告書を添付してください。

2912-7

あきる野市議会

【概 要】

期 日 平成 29 年 11 月 9 日 (木)・10 日 (金) 午前 9 時 30 分開会

会 場 那覇市 沖縄県立武道館 那覇市奥武山町 52

主 催 全国市長会、(公益財団法人) 後藤・安田記念東京都市研究所  
(公益財団法人) 日本都市センター、那覇市

協 賛 (公益財団法人) 全国市長会館

会議内容

第一日 (11 月 9 日) 基調講演、主報告、一般報告

第二日 (11 月 10 日) パネルディスカッション、行政視察

行政視察

那覇市主催 (希望者のみ、無料)

会議報告

会議は、全国から市長並びに議員など行政に携わる者およそ 2,200 名が参加して「ひとがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略～新しい風をつかむまちづくり～」を総合テーマとして 2 日間にわたり開催された。

会議では、那覇市長による「ひとつなぐまち～新しい風をつかむまちづくり～」の市の取り組みの紹介をはじめ、都市の魅力を高めていくための自治体の役割の考察をするなど、それぞれの体験や研究成果に基づく講演と報告、パネルディスカッションが行われた。

## 第一日

基調講演  
多様性のある江戸時代の都市

東京大学史料編纂所教授  
山本 博文



### 主報告

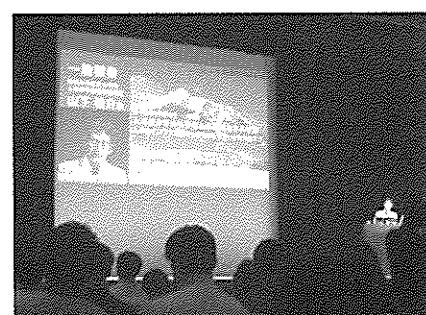
ひと つなぐ まち～新しい風を  
つかむまちづくり～

沖縄県那覇市長  
城間 幹子



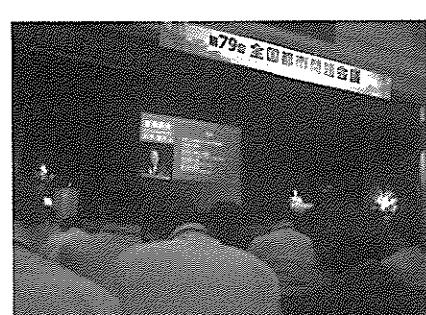
人口減少社会の実像と都市自治  
体の役割 ～人口とインフラの  
適正な持続的配置はいかに可能  
か?～

首都大学東京大学院人文科学研  
究科准教授 山下 祐介



自然と都市が融合し共生が地域の  
価値を高めるまちづくり

北海道釧路市長 蝦名 大也



新たなステージに入った沖縄觀  
光～複合的な魅力を有するハイ  
ブリッジリゾート～

琉球大学觀光産業科学部長・教授  
下地 芳郎



## 第一日

### 基調講演

多様性のある江戸時代の都市 東京大学史料編纂所教授 山本博文

江戸時代は江戸、京都、大坂（三都）の巨大都市が発展した。江戸は18世紀に100万都市ロンドンに匹敵する世界有数の大都市である。全国には260程の藩がおかれ、各藩は城を中心に城下町が形成された。国元と江戸を二年ごとに往復する参勤交代の制度は、街道と宿場町の繁栄をもたらした。文化や情報も、大都市から城下町にもたらされ、現在の日本の原型となった。幕末に参勤交代がなくなると、宿場町は衰退していった。

### 主報告

ひと つなぐ まち ~新しい風をつかむまちづくり~

沖縄県那覇市長 城間幹子

那覇市は沖縄の玄関口であるとともに、東京、香港、ソウル、北京、マニラなどの国内外の主要都市へ近く、地理的優位性を生かしたアジアの商業貿易拠点となっている。今年、本土復帰45周年を迎えたが環境整備により交通インフラや都市環境整備などの都市化が進んだ。一方、昔ながらの街並みや文化が残り、観光客を集め大きな魅力となっている。あまりにも中心市街地が観光地化され、地元市民の足が遠のいていることから地元市民も楽しめる施設として公営市場の建て替えを推進している。

### 一般報告

人口減少社会の実像と都市自治体の役割 ~人口とインフラの適正な持続的配置はいかに可能か?~

首都大学東京大学院 人文科学研究科准教授 山下 祐介

日本の社会は、東京の一極集中により地方が衰退しバランスをくずしている。

人口の減少は、地方自治体の財政難につながる。インフラ維持を困難にし、住民

へのサービス提供が減少し、仕事が減り、ますます人口減少が加速することになる。地方が衰退し、人、物、金、情報が大都市に集中する。

人口減少を解く手がかりは、適切に財源を地方に分配し、予算をつけ、インフラを維持し、人の流れを正常化して安定的に維持していくことである。

自然と都市が融合し共生が地域の価値を高めるまちづくり

北海道釧路市長 蝦名 大也

釧路市は、阿寒湖周辺の北海道開拓の歴史と、アイヌ文化の歴史を再認識した。

阿寒湖周辺の景観や、苔類、アイヌ文化の保存をすすめている。

釧路市では大学進学者の流出があったが、公立大学を設立したことで減少した。

また、涼しい釧路、花粉の飛ばない釧路など、他との違いをしっかりと進めながら、まちの歴史を大事にして、自然と共生するまちづくりを進めている。

新たなステージに入った沖縄観光～複合的な魅力を有するハイブリッドリゾート～ 琉球大学観光産業科学部長・教授 下地 芳郎

那覇市は、琉球、日本、中国、米国という4つの文化をもつ都市である。

近年、沖縄には、観光客が一日あたり8万人滞在し、1年間で45万人が修学旅行で訪れる。ビジネスで訪れる来訪者も増加している。外国人観光客の増加に伴い、文化の違いに基づくトラブルや住民生活への影響も顕在化している。

国際旅行客の目的調査では、レジャーが半数。それ以外のビジネスや、知人親戚問、宗教等が半数を占め、今後、多様なニーズに対応することが必要である。

沖縄総所得の5.7%のみが米軍基地関連の収入であり、観光産業が沖縄の経済を支えている。

## 【概 要】

2日目 「パネルディスカッション」

テーマ[ひとがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略]

一新しい風をつかむまちづくりー

## ○コーディネーター

【後藤春彦】早稲田大理工学術院教授

## ○パネリスト

【能作千春】(株)能作克治社長代理

富山の産業観光を通し県全域のPR  
を行うことが民間でできる地方創生。

地域、伝統の素晴らしさを伝えること

が伝統産業の復活、地域創生との考え方で子供たちを優先に工場見学を始め、産業観光の仕組みづくりに取り組む。

【藤田とし子】まちとひと 感動のデザイン研究所代表

千葉県柏駅前のまちづくりを手掛ける。まちなかのマップ作りから始め「作り手」と「使い手」の共感が響きあう人と人とのつながりから、まちのにぎわいに発展。「市民起点」を重視したまちづくりに取り組む。

【平田大一】沖縄文化振興アドバイザー

沖縄の観光産業は「感動を体験する産業=感動産業」との持論をもち、沖縄型の「感動産業」として「感動立県おきなわ！」を目指し世界と沖縄をつなぐ取り組みを展開。世界遺産指定の「組み踊り」など文化をおやつではなく主食と考える沖縄だからできる人づくり産業に取り組む。

行政の仕事は仕組みを作ること=ピッチャー。文化団体・外郭団体などの文化振興活動=キャッチャー。キャッチャーの役割がキーパーソンであるが、高齢化で人材育成が難しい面もあるという課題も上げ、中間セクターが必要と提案もあった。

【山岸正裕】福井県勝山市長

住民の自主性をいかに出すか、小さな枠を取り扱う中で市民参加型まちづくりを推



進。10地区のまちづくり団体に各地区年間100万円の事業補助をつけた「わがまちげんき事業」を実施。日本ジオパークに認定された「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」にエコミュウジアム（展示資料の現地保存、住民が参加しての運営などにより、地域を見直し、その発展を目指す）を組み込んで活動の原動力に。

#### 【染谷絹代】静岡県島田市長

まちづくりを自分事としてとらえる市民をどう育てていくか（民間力）。前例にとらわれない戦略が大事。アジアで初めてきかんしゃトーマス号が走行。お茶のまち島田市緑茶化計画でポストをグリーンにするなど様々なPRを取り組む。

ディスカッションでは、パネリスト全員が今回のテーマに沿った自身の取り組みを紹介した後、互いの感想を述べ最後にコーディネーターの総評があった。

他に、国に対し、「規制が多く時間がかかりすぎる。スピード感を持って進められるよう改善を。」「観光・文化を考えるとき、文化・スポーツが教育に入っていて観光は別。思い切った組織改革が必要。」という意見がでた。

総評では、テーマの「ひとがつなぐ」とは、市民と職員のつながり。問いかけに答えていく相互関係が人間性を高めていく。ひとがキーワードであり多様な人々がいかに一緒に暮らしていくか、価値観の共有で持続可能な社会を。などの問題提起もあった。

閉会式では、次期開催市、新潟県長岡市の磯田達伸市長の挨拶、主催者の新藤宗幸氏の閉会挨拶があった。昼食後、行政視察で世界遺産・首里城を訪ねる。

#### 【感想等】

自治体のトップと民間の代表の実践から出てくる内容は、「ひとがつなぐ・地域の戦略」など人とのつながりや、前例にとらわれない考え方など成功の視点を学ぶことができた。地域の創生、まちづくりの取り組みには、行政と市民という人のつながりをどう築いていくか、高齢社会の中で民間力をどう育てるのか、成功事例を参考に本市のまちづくりに役立てるよう研鑽をしていきたい。

行政視察の首里城は14世紀末に建立され、中国の宮殿建築と日本の建築様式を基本に琉球独特の城になっている。ガイドさんの案内で説明を受けながら時代背景を学ぶ。

中国と日本に攻められる中、両国の良さを取り入れながら友好関係を結び琉球民を守つ  
てきた知恵に感動した。

